

## 平成29年度 長野市産業振興審議会 第1回観光振興専門分科会 会議録

日時 平成29年7月26日（水） 午後2時から午後3時30分まで  
場所 長野市役所 第一庁舎7階 第一委員会室  
出席者 委員（12人中8人出席）  
事務局6人

### 1 議長選出

長野市産業振興審議会条例第6条の規定により、以下のとおり選出

議長：笠原 甲一 委員

### 2 議事（要旨）

#### (1) 長野市観光振興計画について

ア 平成28年度の実績

イ 平成29年度の実況

資料1 重点プラン実施計画の総括

資料2 観光振興計画アクションプラン作業部会について

以上の資料に基づき事務局説明

### 3 質疑応答、意見など

委員：観光入込み客数が平成27年度よりも落ちているが、平成26年度よりもいいというのは、真田丸が要因か。

事務局：主な要因として真田丸を位置付けたが、四季の彩りキャンペーン等様々な事業があったので真田丸だけが押し上げたものではないが、大きな要因としては真田丸があったものと考えている。

委員：我々の会社を例にとって言うと、真田丸はあまり関係ない。平成27年の3月に北陸新幹線ができたのが絶対的に平成28年にも影響があった。この中に、なかなか盛り込めないと思うが、インバウンドのことは何か言及されているか。真田丸で外国人が来るとは思えない。

事務局：真田丸の時に松代駅を観光情報の拠点にしたが、そこで対面調査した結果を載せている。外国人の方も増えているという認識はある。

事務局：北陸新幹線の金沢延伸は、大きなファクターであることに間違いない。インバウンドについては、長野市は立ち遅れている。現状を分析し、対策を強化していこうということでコンベンションビューローとの話合いに着手している。

委員：この5か年でインバウンドは相当増えた。一番大きな要因はスノーモンキーで、まだまだ人気は衰えていない。今まで冬場、白馬及び野沢に宿泊していた方が、一昨年、昨年と雪不足で長野市内に宿泊する方が多かった。スノーモンキーを見に来たオーストラリア、シンガポールからの宿泊が増えている。

シンガポール中心に展開している会社に委託をして、長野発着のオプションツアー及び宿泊をお願いして3年目になるのでその効果が出てきた。今後はスノーモンキー、戸隠を中心にインバ

ウンド展開をしていく。真田丸は台湾でも放映されたが、残念ながらあまり認知されていない。アジアの人にはアニメが第一の追っかけの対象になっているようだ。「君の名は」の新海監督は長野県出身なので、長野県を舞台にした作品を期待している。今まで長野県を舞台にしたアニメ作品は三つほどあり、松代の皆神山や北信濃を中心にした物だが、回遊をさせていただいている。

委員：特に今年は、冬以外でもインバウンドの方は増えていると感じている。平成27年の御開帳、平成28年の真田丸とやってきて、今年度に入ってからホテルの宿泊は少なくなっているが、スノーモンキーだけは20%増えている。駅で外国人の数を数えているが、白人は分かるがアジア系は分からない。スノーモンキーの切符売り場では外国の方かどうか分かるが。相当減ったとはいえ、インバウンドは増えている。

委員：国内の金沢需要は一段落したので落ち込んでいる。一般のチケットはあまり減っていないが、旅行商品が落ち込んでいる。

委員：4月・5月の長野市の宿泊は相当厳しい。日本人が減っている。インバウンドでうまく取り込んだところは前年クリア。そうでないところは落ち込んでいる。

委員：長野は2年続いたから飽きられてしまっているのでは。

委員：7月から、長野市内のJR関係の宿泊は前年比で100%超えた。上田は真田丸の影響で50%くらいになっている。

委員：JTBもやっていたが、あまり効果があったとは聞いていない。

委員：団体が好調なようだ。個人は厳しい。残念ながら長野市内ではなく、県内の温泉地に行っている。

委員：松代ロイヤルホテルの話だが、日本人の観光客は東日本大震災からだいぶ減ってしまった。そこを何とかカバーしようと海外にプロモーションをかけて駐在員を置いてやってきて効果は出ている。ここ何年かは台湾や韓国の人ばかりいるので、日本人に評判が悪い。外国人専用ホテルのようになってしまったが、がんばっていると聞いている。

委員：小さな旅館で団体が入ってしまうと、日本人に敬遠される。

委員：北信濃地域で、インバウンドの団体を低料金で受けているのは松代ロイヤルと斑尾のタングラム。そこが取れないと高いホテルへシフトしていく。金額的には非常にシビア。御開帳の時に一旦値上げをしたが、インバウンドについては下降気味。

議長：資料1、2についてはいかが。

委員：私は、大人の休日倶楽部を使っている。6月の下旬からの期間に初めて青森まで行ったが、青森では駅の方も宿の方も、大人の休日倶楽部の開催を待っていたということで歓迎していただいた。JR東日本の大人の休日倶楽部は、一番遠い所が青森で1万5千円で行かれるというのは普通の片道分より安い。山奥の鬼無里にも月に何組か外国のお客さんが来るので、外国人は増えていると感じる。シンガポールにイベントで行った時に、持って行ったおやきの袋を持って訪ねてきてくれた人もいた。

委員：来てくれた外国の方に「鬼無里いいよ！」と拡散してもらおうといい。

委員：私は信州新町の道の駅にいるが、外国の人が来るようになった。信州新町は結構メディアが入って綿羊などを取り上げてくれる。プロバスケも来た。サッカーなどスポーツでも宿泊を伴うので、盛んになればいい。

委員：中央通りを歩く人も、お店に入ってくれる人も外国人は増えているが、なかなか受入れ態勢がない。気持ちいいコミュニケーションをとるのは難しい。片言でもいいので、話をして長野の良さを分かってもらえるといい。信州DCは、ホテル旅館組合としても期待しているが、会員の方に話を聞くと、今ひとつ実感がないと。4、5月は市内の宿泊が落ち込んでいるという話だったが、駅前にドリーインや収容力のあるホテルが増えて、競争も激しくなっている。アクションプランを見ると、善光寺・戸隠・松代が三本柱だが、長野市全体の観光のキャッチフレーズのようなのはあるか。私が思いついたのは「神と仏と武士(もののふ)の道」。神は戸隠、仏は善光寺、松代は武士。長野市全体をイメージするにはそんなものもあればいいのでは。

委員：ちょっとtoo lateだが。キャッチフレーズはとても重要。DCは県の方でも間違いなく言われてしまっていることだが、キャッチフレーズと中身が違っている。「世界級リゾートへようこそ。山の信州」ということだが、実際のテレビコマーシャルは違っていた。

内情を話すと、3月に観光課が全部入れ替わっている。DCの前段階で観光の上層部が入れ替わったことで、キャッチが変わってしまっている。私もお話させていただいたが、もう仕方ないと。せっかく北アルプス国際芸術祭という全国の人が認知しているレベルの高いイベントがあったのに、アルクマが出てくるようなイベントと同じレベルで紹介されている。DCの一番いい前夜祭だった。全国のニュースでも流れて、そこで盛り上がって、今、長野県はDC期間中だとつなげればよかったのに、それができてない。キャッチとか物事のコンセプトが全体にきちんと伝わっているか、キャッチの下に何をすべきかという観光戦略、ランドデザインが長野市にも欠けているし、長野県にも欠けている。

委員：皆さんあまりご存知ないと思うが、セブンイレブンとタイアップして商品を出している。7月は県産のレタスを使いサンドイッチを売っている。8月は信州そばをやる。9月まで目先を変えてやる。長野県内300店舗くらいあるが、一軒で1日30個くらいは売れている。DCはまるっきり効果がないわけではない。

委員：今回のDCで長野県は知事の許可を取らないと何も動けなかった。後手後手にまわっているのが一番の問題点だし、「山の信州、世界級リゾート」というキャッチフレーズで長野県がどれだけ売れるのか疑問だ。今まで「さわやか信州」で2回やって、「道を歩こう」で来て、なぜ「山の信州」なのか。一旦決まったことだから、実施の中でどれくらいそれを活用できるか。長野市は山岳ではなく、高原と「まち」だと言っているから、それで売るしかない。長野県がばらばらになっても仕方がない。

委員：「世界級リゾートへようこそ。山の信州」というキャッチフレーズは変えられないから、その地区の魅力をどう伝えるか。

委員：県は観光部長が変わり、JRにもかなりハレーションがあった。キャッチフレーズは知事が最終的に決めたと思うが、盆地でもどこでも山なんだ、ということで商品を作ってきた。キャッチコピーはキャッチコピーとしてあるが、JRサイドとしては新しいものを、埋もれている商品を各自治体とコミュニケーションを取りながら作った。来年、再来年とつなげていかれるようにやってきたので、いろんな商品ができた。

委員：山を目指して来ても、まちの中に泊まらなきゃいけない。去年ユングフラウに行ったが、山は山で素晴らしいし、まちはまちで素晴らしかった。キャッチコピーを今さら変えられないから、そう

いう風を感じてもらえれば。

委員：長野県は、やはり山は山だ。360度山に囲まれた地域だから。我々が住んでいる盆地も平地ではない。しかしコンセプトがズレズレになった感がある。

委員：インバウンドで全国的に言えることだが、正対できるかということだ。ホテルのフロントでパスポートを裏へ持って行ってコピーを取るなんてことをやっているのは日本だけ。キャッシュカードは目の前でやるのに、それよりもっと大事なパスポートを見えないところへ持っていかれたら不安だと思う。パスポートスキャナーの整備は必要。世界的に通用することをやっていかないと。

委員：世界級リゾートと言っているけど外国人旅行者に優しくない。お金も簡単に替えられないし。

議長：どこへ行ってもパスポートのコピーを取るのか。

委員：外国人が日本に来て宿泊する場合はコピーを取るが、長野県はやっていない所も多い。だから調査をしたときにどこの国から来ているのか正確な数字が出ない。

議長：民泊ではそんなことをしてられないのでは。

委員：規制緩和の関係はこれから法整備されてくるであろう。

事務局：旅館業法ではコピーは取らないといけない。保健所でもそう指導している。

委員：両替はどう？

委員：月平均、少ない月で100万円、多い月で300万円を超える。野沢は冬場の両替は多いが、グリーンシーズンはほとんどないので機械は置けない。

委員：場所は1か所だけなのか。

委員：長野駅の観光情報センターだけ。もっと他の所も置いていただけるといいのだが。電気代だけの負担なので。お金を運んでくるのも、回収するのもみんな業者でやってくれる。レートを毎日更新するが、それもパソコンで入れ替えをしてくれる。

委員：それなら、全部のホテルで置けばいいのでは。

委員：ホテルは手作業で、宿泊客に対してだけ両替をしている。人が集まるような場所にはあってもいい。

委員：海外で両替に困ったことない。日本は両替する所が少なすぎる。

委員：需要はある。長野県では多分一か所だけ。リスクはあるが。